

別記様式

議 事 録

会議の名称	第1回 岩倉市公立保育園適正化配置方針に係る懇話会
開催日時	平成29年11月21日(火) 午前10時から正午まで
開催場所	市役所7階 第1委員会室
出席者 (欠席委員・説明者)	小松委員長、鎌倉副委員長、町田委員、廣中委員、中島(正)委員 今井委員、岸野委員、渡邊委員、寺澤委員、八木委員 社本委員、中島(光)委員 欠席委員：なし 説明者：副市長、教育こども未来部長、子育て支援課長、児童グループ長及び係 コンサルタント：地域問題研究所
会議の議題	○公立保育園適正配置方針策定業務実施方針及びスケジュールの説明 ○公立保育園適正配置方針策定のためのアンケート調査について ・調査方法 ・調査票
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他 ()
会議に提出された資料の名称	資料-1 懇話会委員名簿 資料-2 懇話会設置要綱 資料-3 公立保育園適正配置方針策定実施方針 資料-4 調査票(案)
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	3人
その他の事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. 開会	
事務局	・第1回岩倉市公立保育園適正化配置に係る懇話会を開催させていただきます。
2. 委嘱状の交付 副市長より各委員に対し委嘱状を交付	
3. あいさつ	

副市長

- ・岩倉市は公立保育園が7園、民間の幼稚園が6園でやってまいりました。昭和40年代以降、岩倉団地の建設、入居等で岩倉市のお子さんの数も増えてまいりましたことから、そういった体制を採ってまいりました。平成17年以降人口減少という時代に入り、少しずつお子さんの数も減ってきました。そういったことを受け、岩倉市の施設のあり方を検討したいということで、平成22年度に幼稚園と保育園のあり方研究会というものを設置し、公立保育園と市内の幼稚園が協力して取り組んでいこうということになりました。その時、公立保育園の民営化ということが大きな問題となっていました。江南市では2園が民営化となりました。また、小牧市でも公立の半分を民営化するとの方針を出しています。岩倉市では、単純に民営化するのではなく、民間の幼稚園の力を借りながら乗りきれないかということで研究会を発足しました。平成24年度から子どもの庭保育園をはじめとして、幼稚園には認定こども園に移行していただく、民間の保育園を設置していただくということをやってまいりました。
- ・昨今、待機児童という問題が世間で言われています。岩倉市においても待機児童はありますが、岩倉市の場合に変則的で1歳児に多いのに比べ、3歳、4歳、5歳児のところでは、子どもが減っている状況となっています。公立保育園でも各学年1クラス、北部保育園、西部保育園におきましては3歳から5歳で2クラスの縦割り保育を実施しています。他の保育園でも定員を満たしていないということで、3クラスは保持しつつ、縦割り保育に移行しつつあります。待機児童という問題とは裏腹に子どもの数は減っているという現状があります。
- ・ハード面につきまして、どの自治体でも公共施設のあり方ということは問題となっていますが、人口減少の中、市民の数は減っていくことが予測されています。そんな中、公立保育園が耐用年数を迎えており、今まで通り、公共施設として改築を図っていくのかといったところが問題となっています。市としては、統廃合や廃止も併せて検討を進めなければいけないということで、別に協議会をつくって公共施設の再配置を検討しています。保育園も公共施設の再配置の対象とはなりますが、これまで、それなりに検討を加え民間のご協力もいただきながらやってきた経緯がありますので、単にハード面だけで議論するのではなく、ソフト面を重視し、一定の方針を持ちたいということでこの懇話会を立ち上げさせていただきました。この問題は、公共施設再配置のほうで改

	<p>めて議論はされますが、まず、第一義的には保育園、幼稚園に関わる皆様にお集まりいただき、今後、施設のハード面をどのようにしていくかといったことを中心に議論していただきたいと考えております。忌憚のないご意見をいただき、検討の材料とさせていただきます。活発なご発言をお願いいたします。</p>
<p>4. 委員自己紹介 各委員及び事務局自己紹介</p>	
<p>5. 委員長・副委員長の選出</p>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長、副委員長の選任をお願いいたします。 ・懇話会設置要綱の第4条第1項において、「懇話会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める」としております。 ・事務局より、委員の皆様にお諮りしたいと思います。 ・甚だ僭越ではございますが、事務局より、委員長につきましては、識見を有する方として、小松尚委員の選任を提案させていただき、副委員長につきましても、識見を有する方として、鎌倉博委員の選任を提案させていただき、委員の皆様の賛同をいただきたいと考えております。いかがでしょうか。ご異議がなければ、拍手を持ってご承認いただきたいと思います。 <p>(拍手により承認)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご承諾いただけたということで、委員長は小松尚委員、副委員長は鎌倉博委員に決定しました。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・責任の重い仕事だと思っております。皆様のご協力をいただきながら進めていきたいと思っておりますので、自由闊達にご意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長をサポートさせていただきながら、皆様のご意見を反映できるように、進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。
<p>6. 議題</p> <p>(1) 公立保育園適正配置方針策定業務実施方針及びスケジュールの説明</p> <p>事務局より、資料3「岩倉市公立保育園適正化配置方針策定実施方針」に基づいて、公立保育園適正配置方針策定業務実施方針及びスケジュールについて説明</p>	
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、施設規模が縮小されるとサービスが今まで通りということにはいかなくなるので、適正配置を考えなくてはなりません。今まで別々だったものを1つにすることで、デメリットが発生するかもしれませんが、逆にメリットのほうを注目しながらデ

	<p>メリットの解消をしていくということが基本理念だと思います。岩倉では公営と民営の良さをミックスしてきたという経緯がありますので、それに応じたやり方を考えていこうということだと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール案については、この会議を6回開いてスケジュール案に記載のテーマを議論いただきますが、保育園の適正配置だけを考えるのではなく、他の公共施設の再配置も連動しながら考えていかなければならないと思います。少なくとも、学校の再編とも連動させなければいけないので、どこかの時点で擦り合わせが必要になると思います。事務局は来年6月くらいからやっていこうという提案をされています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の削減について、国からの補助金で何とかならないのでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・公立保育園の建て替え、改修については、国からは一切補助金はありません。民間の場合にはあります。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設等総合管理計画の中で今後、40年で122億円不足とありますので、これを何とかしなければならないということですか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・人口も減っていき、税収も減る中で公共施設、インフラを今まで通り維持した場合、長寿命化を図っても122億円不足するという試算です。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・40年という長い計画ですが、何とかなるのでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今の施設は耐用年数が来てしまいましたが、長寿命化計画ということで改修により、耐用年数を先送りできます。この場合、建て替えよりは少ない予算で済みます。しかし、40年の終わりのほうでは、建て替えが必要になります。 ・40年の計画については、10年、20年とそれぞれの期間中にやらなければならないことは決まっており、その集計で40年間としています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・岩倉市の更新サイクルは何年で設定されていますか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクルについては、はっきりとは設定されていません。 ・施設の耐用年数が基準になっていますが、ほとんどがそれより後となっているのが現状です。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・1園を除く、6園は既に40年数を越えていますので、長寿命化により改修して40年を60年、70年にするということでしょうか、これを行ってもこれくらい不足するということでしょうか。長寿命化を何年までするのでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿命化を60年として、試算しています。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・60年で建て替えが発生するということになりますね。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 年、15 年おきに補修に掛かる費用と 60 年後に建て替える費用について、税収を勘案して試算したものです。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来、子どもの数が減ることで適正な数にするということですね。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の統廃合を受けて、困るという声が出ることは必定と思われ ます。そのため、適正配置を考える上で、将来の見通しを的確に 判断することが求められると思います。そこで、(資料 3 : 2 ペー ジの図) 将来人口の見通しを見ると、3 つの予測がなされていま すが、見通しに幅があります。新しいまちづくりなどで人口が予 測ほど減少しなかった場合、統廃合の結果、待機児童が増える ということにもなりかねません。この見通しとなった根拠をご説明 いただきたい。 ・ 待機児童が現在もある一方でクラスが減っているところもある のようですが、地域で保育ニーズに差があると思われ ます。統廃合の際に重要となってきますので、その辺りもお教え 願いたいと思います。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ (資料 3 : 2 ページの図) 一番下の水色のグラフが最も人口が少 くなる見通しとなっています。これは、社会保障・人口問題研究 所が推計した数値となります。2010 年までの数値は国勢調査の 人口です。この数値を基に合計特殊出生率 1.45 くらいとし、死 亡する方を今と同じくらいとしたときに岩倉市の人口を推計した ものです。中央の緑のグラフは、国が提唱する合計特殊出生率を 2030 年までに 1.8 に上げ、現在の人口維持のために 2040 年ま でに 2.07 に設定した場合のものです。赤色のグラフは、それに 子育て世帯が毎年 10 世帯増えたと仮定した場合のものです。 ・ 岩倉市は 20 歳前後の転入は多いのですが、30 歳から 40 歳 くらいの方と 10 歳未満の方の転出が多い傾向にあり、お子さん が保育園、小学校となった頃に転出される方が多いという特徴 があります。仕事、住宅の問題を解消する必要があるかと思 います。 ・ 待機児童については、3 歳、4 歳、5 歳が極端に少ないた め、どの園も定員を満たしていません。0 歳、1 歳、2 歳につ いてクラスが増えない理由は、0 歳児は 3 人に 1 人、1 歳児は 4 人に 1 人、2 歳児は 6 人に 1 人の職員配置を行っていること に起因します。クラスを 1 つつくと保育士が 1 人必要となる ので、単純にクラスを増やすということはできません。仮に、 1 歳のクラスを増やすと、翌年には全員 2 歳となりますので 翌年は 2 歳のクラスを増やさなければなりません。実際には、 4 歳、5 歳のクラスの保育士を下のクラスにもってくるとい うことは、毎年行っていますが、それでも追いつかない状況 となっています。0 歳、2 歳は定員が空くのですが、1 歳 だけが多い状況なので、対応が難しいものと

	なっています。
委員	・(資料3:4ページ2の図) 図にあるハード、ソフトとはどういったことなのでしょう。
事務局	・図にありますハードは建物の劣化状況で、ソフトは利用者の負担と運営の経費などです。 ・ソフトは保育園の定員と園児数に関係があります。ソフトが低いということは、定員に対し実際の園児数が少ないということになります。
委員長	・北部保育園は木造ということで、びっくりしました。
委員	・上の子は北部保育園だったのですが、建物はかなり古い印象を受けました。ドアも危なく、窓も薄いので、冬はとても寒い状態でした。北部保育園は園児数が少ないので、隣の中部保育園と統合されてもしかたがないと感じます。北部保育園に近い親御さんでも中部保育園に通わせる人はいるのではないかと思います。
委員長	・北部保育園が近かったので通わせたのですか。
委員	・自宅が五条川小学校に近いことから、小学校に通うことになった時、子どもの友達と一緒に小学校へ入学できると考えたからです。
委員長	・保育園を選ぶ理由は、自宅からの距離と小学校との関係からでしょうか。
委員	・耐震はやられているのでしょうか。
事務局	・やっています。
(2) 公立保育園適正配置方針策定のためのアンケート調査について 事務局より、資料3「岩倉市公立保育園適正化配置方針策定実施方針」及び資料4「保育園・認定こども園の利用実態等に関するアンケート(案)」に基づいて、公立保育園適正配置方針策定のためのアンケート調査について説明	
事務局	・この場で見直すぐにご意見をというのも拙速ですので、土、日を挟んで来週の月曜日くらいを期限ということで、ご意見を頂戴できればと思いますが、いかがでしょうか。 ・皆様から頂いたご意見の反映につきましては、委員長、副委員長と事務局に一任という形でよろしいでしょうか。
委員長	・事務局からのご提案でよろしいでしょうか。 (異議なし) ・現時点でアンケートについて何かご意見がありましたら、お願いします。 ・問13について、先ほど、保育士の数は決まっているということでしたが、この設問は印象評価なので、必要なのかと疑問に感じました。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士は全部の時間帯を正規で配置しているのではなく、早朝などはパートとしているところもありますが、なかなか、パート職員が見つからないため、手薄になっているのが実情です。アンケートでこの質問をすると、少ないとの回答を得ることは認識しています。そういった意味では保育士の数という部分は必要ないかもしれません。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・問 13 の施設について、現在、園庭を縮減してもよいということになっているようですが、子どもたちにとって、園庭は大事ななのでその辺りの声をうかがう設問があるとよいのではと思います。 ・(資料 4 : 5 ページ、6 ページ) 複合化という言葉が出てきますが、この文言はイメージしづらいと思いますので「他施設の建て替えに合わせた複合化 (小学校との併設)」のような記述のほうが複合化の意味が理解しやすいのではないのでしょうか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料 4 : 6 ページ) 3 番までは現状に対する評価ですが、4 番からはこれからのことになり、重要なアンケートになると思います。問 20、問 21 では現在、通っている保育園が仮になかった場合はどこに通わせますかと聞いており、かなり、工夫されていると思います。この部分のデータは今後、重要なデータとなってきます。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・仮になかったとしたらということで聞かれると、近いうちになくなってしまいうように感じます。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・限定的に捉えられてしまいましたが、あくまで、その場所になかったとしたらという意味合いです。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・単純に今、通っている公立保育園以外に通わせるとすればといった質問ではいけないのでしょうか。
地域問題研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・こういった書き方をしないと、今すぐ保育園がなくなってしまうのではないかと捉える保護者の方がいるかもしれないと考えたからですが、ただ今のご意見のほうが柔らかい表現だと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料 4 : 6 ページ問 20) この間では可能性のあるもの全て丸印を付けるとなっていますが、それぞれの住まいに近いところから、第一希望、第二希望のように順序をつけたほうがよいのではないのでしょうか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのほうがよいかもしれません。
地域問題研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・選択数を 2 つまでとするような聞き方もありますが、順序を付けたほうがよろしいのでしょうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・2 つまでということでもよいと思います。全てだと無制限になってしまうのではないのでしょうか。順序をつけなくてもよいですが、地域ごとにどの保育園に通わせたいかが把握できると思います。保育園の統合を検討する際の判断材料になると思います。

地域問題研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・3つくらいにしましょうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者には外国人の方もみえますので、問題文にルビをふったほうがよいのではないのでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ポルトガルの方が多いので、ポルトガル語でつくる場合は設問数を減らすという方法を取っています。ポルトガル語の調査票を作るかについては、検討させてください。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・何人くらいみえますか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・東部保育園と仙奈保育園が多いのですが、20人弱はみえると思います。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯数でいうと、15くらいなのではないでしょうか。
地域問題研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・以前、ポルトガル語での調査票を作った時は、全てに回答してもらおうと大変なので、設問数を少なくし、大事な部分のみとしました。ポルトガル語でカバーできるのであれば、そのようにさせていただきたいと思います。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・(ポルトガル語での調査票について) ご検討ください。 ・先ほどの話の中で、岩倉の20歳代は転入超過だが、10歳未満と30歳代、40歳代は転出超過になっているとのことでした。このアンケートに回答される方の中には転出される方も含まれていると思うので、転出の意向や転出理由を聞いてみるのもよいのではないのでしょうか。守備範囲からは逸れますが、岩倉市にとってはよい機会だと思います。ご検討いただけたらと思います。 ・アンケートは量的にはどうでしょうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと多いと感じます。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・回答はシンプルにしてありますが、目を通すのに時間が掛るかもしれません。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・岩倉市父母の会では毎年アンケートを作って、行っていますが、それよりは、ずっと見やすいです。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・分量もこの程度で、出来る限り答えやすいように、さらなる工夫をして取り組ませていただきます。 ・(委員からアンケートに関する意見を頂く件) いつまでだったでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・来週月曜日でいかがでしょうか。様式、方法は構いませんので、よろしく願いいたします。
地域問題研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見には、問番号を付してお願いします。 ・(資料4：2ページ問9)「問7で1.いると回答した方」の部分は「問8で1.いると回答した方」と訂正してください。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料4-2) 参加したい人は連絡先を記入するようになっていま

	<p>すが、次は直接連絡するという事なのではないでしょうか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 限定せずに懇談会を開く際、意向を把握できていないと出席できない方もあることから、意向がある方を予め把握しておき、その中から選択させていただこうという趣旨です。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート結果を受けて、懇談会に出席したとする方もいるのではないのでしょうか。 ・ アンケート結果は公開されるのでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開します。 ・ 以前、市民討議会というものを初めて行ったのですが、郵便による無作為抽出で行った際、80 通の参加希望が寄せられました。定員は 40 だったので、半分の方しかご参加いただけませんでした。その時、かなり意識が高い方がみえるのだということを感じました。今回は予め、積極的な方を把握しておこうというのがありました。もし、集まらない時は保護者会のほうでPRさせていただこうと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ メールアドレスが必要なのはなぜですか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ メールアドレスのほうが多いということからです。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園では電話番号等は把握していますが、この段階でメールアドレスが必要なのでしょうか。次の段階ではメールアドレスが必要なので予めうかがっておくということなのではないでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初から個人情報を集めるのもどうかと思いますので、参加が決まった方をお願いするという形のほうがよいかもしれません。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ (資料4、資料4-2) 資料4の表題は「保育園・認定こども園」となっており、資料4-2の表題は「公立保育園」となっています。資料4-2のほうは、公立保育園に通わせなかったけれども、現在、認定こども園に通わせているという保護者は対象外なのではないでしょうか。
地域問題研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局での途中の議論で、アンケートを公立保育園だけにしようということがあったのですが、同じ保育ということから、広げたほうがよいということになりました。そんな中、タイトルだけ、残ったのだと思います。事務局で検討させていただきます。
<p>7. その他</p> <p>事務局より、次回の開催日について日程調整</p> <p>各委員の都合を確認の後、次回は平成 30 年 1 月 22 日 午後 1 時 30 分から開催することに決定。</p>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回岩倉市公立保育園適正化配置に係る懇話会を閉会させていただきます。